

東川スタイル×大崎システム 日本と世界の未来を育む「リサイクル留学生プロジェクト」発足 — 慶應義塾大学 SFC 研究所の助言のもとで、北と南の2つの町が協働で、 社会課題に挑戦するグローバルな人材育成に挑戦します—

11月27日、東川町（北海道、町長：松岡市郎）、大崎町（鹿児島県、町長：東靖弘）、慶應義塾大学 SFC 研究所（所長：田中浩也、担当：社会イノベーション・ラボ（代表：玉村雅敏）。以下、SFC 研究所）は、「日本と世界の未来を育む『リサイクル留学生プロジェクト』の研究開発と推進に関する協定」を締結します。同日、慶應義塾大学三田キャンパス（東京都港区）にて、協定書の調印式ならびに記者会見を行います。

本協定のもと、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に寄与する社会システム構築と人材育成を推進します。

1. 協定の概要

（主旨と目的）

写真文化首都として、潤いと活力のあるまちづくりに取り組み、人びとが影響し合い「東川スタイル」を共創し続けてきた東川町と、住民力と自治体職員の力を発揮し、焼却に頼らず徹底した分別による低コストのごみ処理方式である「大崎システム」により「リサイクル率11年連続日本一の町」を実現してきた大崎町、「未来を先導する実学と人材育成」を行ってきた SFC 研究所の連携により、日本と世界の未来を育む「リサイクル留学生プロジェクト」の研究開発と推進を行い、日本さらにはグローバルに未来を先導する社会システム構築と人材育成を推進します。

その一環として、慶應義塾大学 SFC 研究所に設置する社会イノベーション・ラボの助言のもと、北と南の2つの町が協働し、日本初で唯一の「公立日本語学校」を営む北海道東川町にて日本語教育を行い、その後、鹿児島県大崎町において、日本一の資源リサイクルシステムの研修を行い、持続可能な社会の形成およびグローバルに活躍する人材育成に取り組みます。

（連携事項）

三者は、前項の主旨と目的を達成するために、次の事項について連携し、協力します。

- （1）地方創生、地域活性化、グローバル戦略、未来戦略、SDGs の実現に関すること。
- （2）日本と世界の未来を育む「リサイクル留学生プロジェクト」の研究開発・推進・普及に関すること。
- （3）地方創生や地域おこし、社会イノベーションを担う人材の育成と交流に関すること。
- （4）三者の知的、人的および物的資源の活用に関すること。
- （5）その他、本協定の目的を達成するために必要な事項。



2. 協定書の調印式、記者会見

日時： 2018年11月27日（火）13:30～ ※調印式の後、記者会見を行います。

場所： 慶應義塾大学三田キャンパス「三田インフォメーションプラザ」2階会議室（参考1）

出席者： 東川町 松岡 市郎（東川町長）
大崎町 東 靖弘（大崎町長）
慶應義塾大学 玉村 雅敏（総合政策学部教授） ほか

3. 参考資料：日本と世界の未来を育む「リサイクル留学生プロジェクト」チラシ（添付）

Web サイト <https://www.higashikawa-osaki.jp/>（11/27 公開）※ 東川町・大崎町作成



プロジェクト概要

いま、地球規模でゴミ問題が深刻化しています。処理できないゴミの山が環境を汚染し、そこで暮らすたくさんの人々が苦しんでいます。

このプロジェクトでは、北の北海道東川町と、南の鹿児島県大崎町の2つの町が連携し、それぞれの町が異なる分野でこれまで培ってきた知識・経験を提供し合い協働することで、日本の社会とつながりながら、世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する、グローバルに活躍する人材の育成に取り組みます。

ひとりでも多くの方にこのプロジェクトを知っていただき、ご支援いただくことで、共に未来を育んでいきたいと考えています。



北海道東川町

日本初で唯一の公立日本語学校



世界から留学生を受け入れ

日本語や社会・文化を学び、日本の社会とともに未来を育む人材を育成



鹿児島県大崎町

リサイクル率日本一の技術

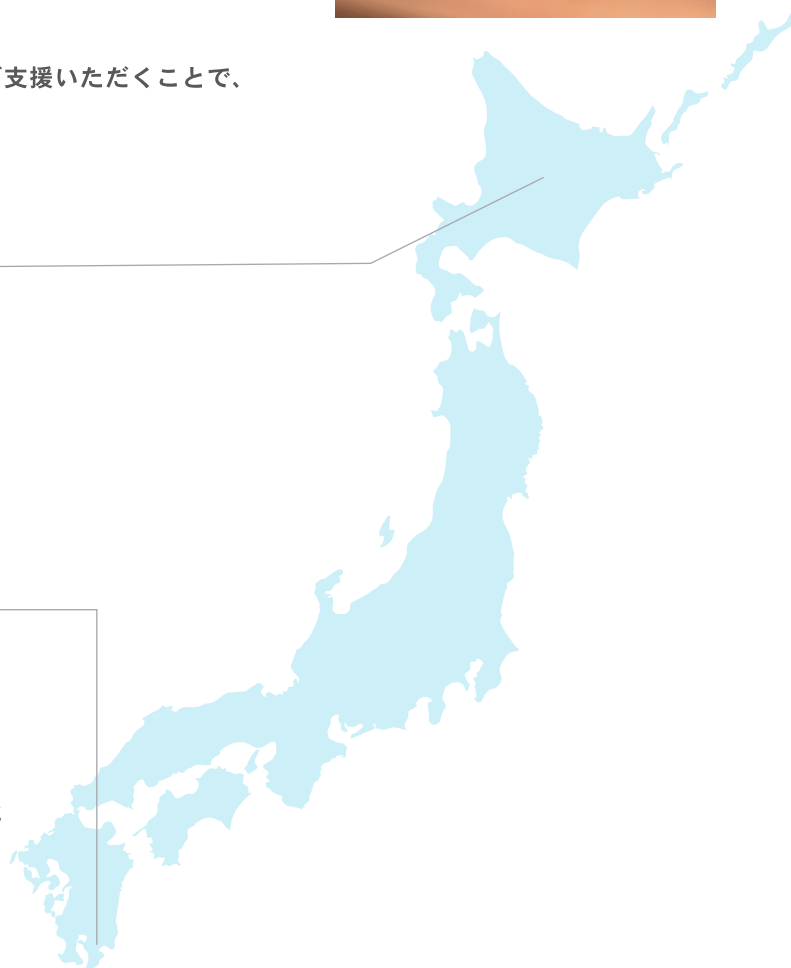


東川日本語学校からの留学生を受け入れ

日本一のリサイクル技術を学び、世界各地の現場で未来を育む人材を育成



日本の社会とつながりながら、
世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する、
グローバルに活躍する人材を育成





北海道東川町

北海道のほぼ中央に位置する人口約 8,000 人の町。
1985 年に、世界にも類のない「写真の町」宣言をし、
文化によるまちづくりを行っています。
世界中の「人」と「文化」が出会い、世界中が笑顔に
溢れる写真文化首都の創生を目指しています。

スタンダード

人口 8000 人のまちが共創する未来の価値基準 「東川スタイル」

東川町は、国内外からの定住者が増え、過去 20 年間で人口が約 20% 増加。
さらには、日本初で唯一の公立日本語学校などの開設により、留学生を
はじめとした新たな人の流れが生まれています。また、人口 8,000 人の
まちには 60 以上の個性的な店舗が点在し、カフェ、飲食店、ベーカリー、
ショップ、工房などが営まれています。このライフスタイルに合わせた
無理のない働き方。そして、多様な人びとが影響しあい共創しながら育まれた
価値基準である「東川スタイル」。これからの社会を予見する未来の
価値基準として注目されています。

日本一のリサイクルのまちが世界に輸出する環境技術 「大崎システム」

大崎町には一般ごみ焼却施設がなく、『混ぜればごみ、分ければ資源』の
意識のもと、27 品目を分別回収して、ごみの再資源化に努めており、ごみの
リサイクル率 11 年連続日本一を達成。そのリサイクル率は 80% を越え、
全国平均の約 20% を大きく上回っています。また、その技術を世界に向けて
輸出しており、インドネシアのデポック市やバリ州などのごみ減量化・資源化
など、国境を越えごみの減量化に取り組む協力を行っています。



鹿児島県大崎町

大崎町は九州の南に位置する、人口約 13,000 人の町。
住民力と自治体職員の力を発揮して、焼却に頼らない、徹底した分別による
低コストのごみ処理方式である「大崎システム」を構築して、
「リサイクル率 11 年連続日本一の町」を実現しました。
また、温暖な気候と溢れる湧水で育む農畜産物は、生産量も国内最大級であり、
より高い品質を求め常に挑戦し続けています。

支援の方法

東川町と大崎町の連携による本プロジェクトを実現させるべく、ふるさと納税による
みなさまのご協力を募っています。いただいた寄付は、留学生の受入や研修プログラム
に関する費用の一部に活用いたします。

目標金額 2,500,000 円 | 募集期限 平成 31 年 1 月 31 日まで

本プロジェクトへのご支援は、ふるさと納税で 10,000 円からとなります。
ご支援いただいた方には、東川町 × 大崎町の **コラボセット** をお届けいたします。

※本プロジェクトへの寄付の受付は、鹿児島県大崎町が行います。

ふるさと納税について

ふるさと納税は実質負担 2,000 円で日本各地の自治
体を支援し、返礼品を受け取ったり、各自治体が実
施する様々な事業に参加することができる制度です。
寄附した金額のうち 2,000 円を越える部分は所得税
と住民税から控除されます。

セット内容



大雪旭岳湧水 500ml

大雪山の雪解け水が長い年月をかけて大地にしみ
込み、ミネラルをたっぷり吸収してきた天然水
です。(東川米を炊く水としてお使いください)



特A・東川米「ななつぼし」無洗米 420g

水が豊かな東川町でつくられた東川米「ななつぼし」
は北海道を代表するお米です。つや、粘り、甘みの
バランスが抜群で、冷めてもおいしさが長持ちします。



鹿児島県産うなぎ長蒲焼 1尾

こつこつと生産者が築き上げたブランド『鹿児島県
大隅産鰻』。大崎町は温暖な気候と水質のよい地下
水が豊富な国内有数の鰻の産地です。高品質で、
安心安全な「国産 おおさき鰻」です。



「東川米」と「おおさき鰻」で
是非、鰻丼としてご賞味ください。

お問合せ

本プロジェクトやふるさと納税に関するご質問は、
東川町・大崎町の各担当部署にお問い合わせ下さい。

東川町 東川スタイル課

TEL: 0166-73-4666

大崎町 企画調整課

TEL: 099-476-1111

プロジェクトホームページ
<https://www.higashikawa-osaki.jp>